

第48回日本脊椎脊髄病学会を主催して

波呂 浩孝（山梨大学大学院総合研究部 整形外科科学講座 教授）

1. はじめに

2019年4月18日から20日までの期間で、会場はパシフィコ横浜にて、第48回日本脊椎脊髄病学会を開催させていただきました。1974年に第1回が開催され、伝統ある学会を山梨大学整形外科科学講座が担当させていただき、大変光栄に存じます。

学会のテーマは常に臨床での問題や不明な点を研究で解明し、臨床へのフィードバックを行う努力が必要と考え、“事上磨錬”としました。王陽明の記した伝習録には、現実の日常生活の中で活動し、その中で道を見つけて鍛錬する重要性が説かれています。日々の臨床の中で患者さんの診療を通して、医学や医療を鍛錬することが重要です。不十分な診断あるいは治療法があれば、一度研究に立ち返って真実を解明し、その成果をさらに臨床へ還元し、新しい医療として最終的に患者さんに届ける責務があります。また、先人により開発された手術法を正確に実施できる努力は大切ですが、1人1人が新しい検査や医療を開発し、臨床応用していく努力も重要です。そこで、副題は“ask what you can do for spinal disorders”といたしました。会長講演では、椎間板ヘルニアの研究とMatrix metalloproteinaseを用いた開発中の椎間板内治療と浜松医大と信州大と協力して行った臨床研究を報告しました。

1,603演題をご応募いただき、厳正な査読により採択率は67.3%としました。また、英語演題の応募は約100演題で、海外から約6割の応募をいただきました。北米、中米、アジア、欧州、中東など13か国に上ります。

2. プログラム

特別講演2、文化講演1、会長講演1、教育研修講演13、シンポジウム2、Expert Technical Note 4、指導医イブニングセミナー1、などで、188セッション、1,016演題数でした。共催セミナーはランチョン20、アフタヌーン8、モーニング8、ハンズオン3の計39講演でした。



展示は機器 61 社，書籍 1 社，車両 1 社でした。参加人数は 2,597 名でした。

3. 特別講演

田口敏彦先生（山口大学名誉教授，本学会前理事長）による、『頰椎椎弓形成術—誕生とその後の進歩』と題した講演，ならびに，野原裕先生（独協医科大学名誉教授）による、『脊椎外科この 40 年の進歩と時代の変遷を振り返って』の講演を行いました。

4. 文化講演

本学工学部発酵生産学科の出身で，サントリー名誉チーフブレンダーである興水精一様をお願いしました。「インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ」を受賞され，Hall of Fame に選出されました。ウイスキー開発には膨大な年月を要し，ブレンドの微妙な割合で香りや味が大きく変化するという講演は，第 1 会場が満員となりました。

5. 教育研修講演

米国，ドイツ，フランス，インド，シンガポールなどから，11 名の著明な脊椎脊髄外科医を招聘し，講演いただきました。

また，医療倫理では，荒神裕之先生に共同意思決定の構築について講演いただきました。

6. シンポジウム

「成人脊柱変形手術における LLIF と骨切りの選択基準について」，「脊椎脊髄疾患におけるトランスレーショナルリサーチ」について英語で討論をいたしました。

7. Expert Technical Note

後縦靭帯骨化症，脊柱変形，腫瘍，などの多くの難治性疾患に対して，演者の先生に手術動画を作成いただいてプレゼンテーションを行う企画を行いました。

8. 一般口演，ポスター

一般口演は 78 セッションで 453 演題（うち英語 35），ポスターは 477 演題の発表をいただ



きました。

9. おもてなし

ポスターと展示会場の中央におもてなしコーナーを設置し、山梨大学開発のワイン酵母を使用したヨーグルト、ぶどうジュース、生信玄餅、ワインを用意しました。

10. おわりに

伝統ある本学会を開催させていただき、医局や同門が同じ目的に向かって詳細に準備をしていく過程を体験できました。また、国内外の多くの方々のご支援に感謝申し上げます。

